日経産業新聞　2018年3月6日

日経産業新聞　2018年（平成

ンーＦ2150」は、黒や濃紺など
刷する際に、カラーインクと白
して鮮明に色づけができる機能
チナンスでは、洗浄カートリッ
ジを付けて従来機の１割の
90秒程度でメンテナンスができるようにした。

Ｔシャツやポロシャツ、トートバッグなどで多品種少量生産が求められるオーダーメードショップやアパレルブランド向けの販売を目指す。

格はオープン。無線ＬＡＮ（構
やＵＳＢケーブルなど各種の接
る。３㌢の機種は、レシートの
力する機能を持ち、防滴・防虫
店で注文と連動して作動するキ
ッチンターにも使える。20年まで
販売を目指す。

新ブランド名は「ｍＣｏｌｌｅｃｔｉｏｎ（エムコレクション）」。モバイルＰＯＳ市場が拡大する中、統一したデザインやソフトウエア提供により利用者を取り込む。

ｍ。三脚で固定しなくても手持
精細な写真が撮れるようになっ
である「深層学習」のアルゴ
ことで、撮影シーンに合わせ
露出を制御できるようになっ

本体の前後や下部の外装にマグ
ネシウム合金を採用したほか、30
回の耐久テストに耐えたシャッ

アーキテック2.5億円調達

ＩＣ設計ベンチャー　ＡＩチップ開発

演算処理ＩＣ設計のアーキテック（大阪市、高田周一社長）はトヨタ自動車や三井住友銀行が出資しスパークス・グループが運営する「未来創生ファンド」から第三者割当増資でこのほど２億５千万円を調達した。アーキテックは調達した資金で、人工知能（ＡＩ）を高速処理できる大規模集積回路（ＬＳＩ）の製造やアルゴリズムの開発に利用する。

同社の開発するＬＳＩは名刺サイズのエッジコンピューターで、自動車やドローン（小型無人機）、産業用ロボットなどへの応用が期待されている。演算回路に効率よくデータ処理を割り振る仕組みを採用することで、ＧＰＵ（画像処理半導体）やクラウドを使わずにＡＩや画像認識の演算を高速で処理できる。ＣＰＵ（中央演算処理装置）と比べて１００倍以上、大型ＧＰＵと同等の性能を実現できるという。

アーキテックは今後も資金調達を続け、５月末までに計５億円を調達する目標だ。２０２０年にもＬＳＩの量産化を予定する。スマートフォンや車載カメラなどに使う画像センサーにチップを販売したり、ライセンス提供したりする。

アーキテックはパナソニックでテレビや携帯電話の演算回路を開発していた高田社長らが２０１１年に設立したＩＣの設計開発ベンチャー。各演算回路がデータを分担処理する際に稼働率を高められるのが特徴という。

ランドリー店

2017年12月～	①置き型の情 →端末を一元 帯にクーポ
2018年～	②異業種との →飲食店やガ 子マネーや
2019年～	③ビッグデー →店舗ごとに を予測して

ファミマに

クラウド経由で稼働状況を確認できるコインランドリー向け洗濯乾燥機

付与などが確認できるコインランドリー店を増やす。

稼働率などを確認できるＩＴ（情報技術）対応のＦＣ店は現在すでに１８００店ある。これをポイント管理などができるＩｏＴ対応店に順次切り